



一白水星の年

—九星波動で見た2017年—

九星波動研究家

南雲紫蘭

【二黒土星を振り返る】

二黒土星は「土」すなわち「地」で相場参加者が全て「気迷い」し、時に「無に帰する、ゼロになる」というものでした。相場は、疑心暗鬼、迷い、鈍重、気苦労、油断、心中複雑といった相場としては「悪い方向には勢いがつきやすい」流れであったとみます。

実際、英国のEU離脱やトランプ大統領誕生が決定した瞬間、相場は大いに気迷い、一時ゼロに帰するところでした。基本下げ相場である二黒土星は、その前半をドル安、中旬からは円高で推移する一方、他の通貨に対してはドル高となりましたが、トランプ大統領候補勝利の翌日から圧倒的ドル高、株高となりました。

【一白水星の象意は「坎」「水」】

一白水星の象意は「坎」と「水」です。坎(かん)とは、中の陽を外の陰が包む内剛外柔の象で、水が万物を潤すという卦となります。象意は、水に関するもの、穴、冷たいもの、困難、障害、艱難辛苦。いわゆる難卦(大願成就なりがたし)。正象は水、易数は6、属性は陷險、家族は中男、方位は北。北から水が流れる。全ては流転する。季節は十二月上旬、大雪節から冬至を経て一月上旬の小寒節に至る一か月間。春を待つために耐え忍び、準備する苦しい時です。相場で言えば、まさに「陰極」。陰の極み。だが、明るさを孕みます。また、大幅に反転する象を孕んでいます。

一白水星は、九星波動的には陰極とされます。波動で言えば、二黒土星で勢いづいた下落が行きつくところまで行き逆流する。北極まで到達して一気に流れる。そんな波動です。

となると、年盤、月盤が逆転している為替相場等で言えば、米ドルが本格的に反転する年となりそうです。

【秘密、陰謀、暴露…】

昨今から深く潜行していた多くの秘密、陰謀が明るみになる。または新しい陰謀、秘密、裏切りが起こる。その暴露によって人々は驚愕し、パニックにすらなる。一度大いに苦しみ、忘れたはずであった、あるいは克服したはずであった住宅バブルや債務危機。これが形を変えて出現するかもしれません。

リーマンショックやAIG救済が前回の一白水星である2008年であったという事を忘れてはいけません。

その意味では、一連のドル高に苦しむ新興国、特にブラジルやトルコ等の国際収支バランスの崩れそうなところ、あるいは韓国、中近東などイデオロギー、地勢的リスクの高いところ。ロシア、中国とそれに関わる周辺国、民族の問題。イスラムと西欧の対立、米国内に関しては貧困、社会保障、人種差別主義の復活。そうした現象が今一度脚光を浴びるでしょう。

【相場は陰極、ただし年後半は「逆転」】

二黒土星は「弱保合」という意味を持つ通り、原則としては「気迷いながらもじり下がる」という相場展開を意味しました。

しかしながら、この数年過大評価されたものは「爆発的に雷鳴を伴って」「地に落ちる」象意がある —と予告した通り、ブレク

ジットやら、トランプ大統領出現やらと、かなり派手に乱高下した印象です。となると、一白水星の前半は激しく動き、その反発も強烈なものとなるでしょう。

それでは各月の波動を見ていきましょう。月盤は基本逆転しています。

1月：九紫火星

「急落」。昨年来の強気筋のロングが、一気に崩れるでしょう。月盤からは急反転の可能性もありますが、戻りは年波動からはさほど印象的にならない可能性があります。

2月：八白土星

「後半急変」。戻り弱く暴落したのち、後半からは上昇を開始します。

3月：七赤金星

「存外弱い」。「なぜ下げるのか分からない」。ですが、じわじわと下がる相場と考えます。

4月：六白金星

「前後相反する」。前半安く後半上げる象意ですが、年間波動の影響を受けて案外弱いと思います。

5月：五黄土星

「天底別れる」。ここで大底出現でしょうか。

6月：四緑木星

「後下がるなり」。前半大きく上げたのち、ゆるやかに下落する相場となるでしょう。

7月：三碧木星

「安ければ虚勢なり」。二番底示現後は大幅上昇していく日柄です。

8月：二黒土星

「保合いなれどじり高」。引き続き大幅上昇か。押し目買い。

9月：一白水星

「天極まりて止まる」。恐らく、この月が年の最高値となるでしょう。月央からは戻り売りです。

10月：九紫火星

「急落」。再び下げ相場。ただし10月の戻りは年波動から非常に強くなるでしょう。

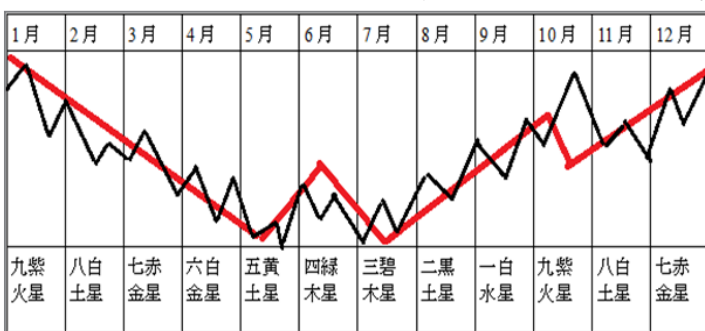
11月：八白土星

「後半急変」。戻り弱くじり安したのち、後半からは急騰か。

12月：七赤金星

「存外弱い」。「なぜ下げるのか分からない」が、じわじわと下がる相場と考えます。しかし波動上は結構戻るかもしれません。

最後に年波動を掲載いたします。それでは皆様の2017年の相場人生が実り多い事を祈念致しまして、筆を擱くことと致します。



ガデワニカル

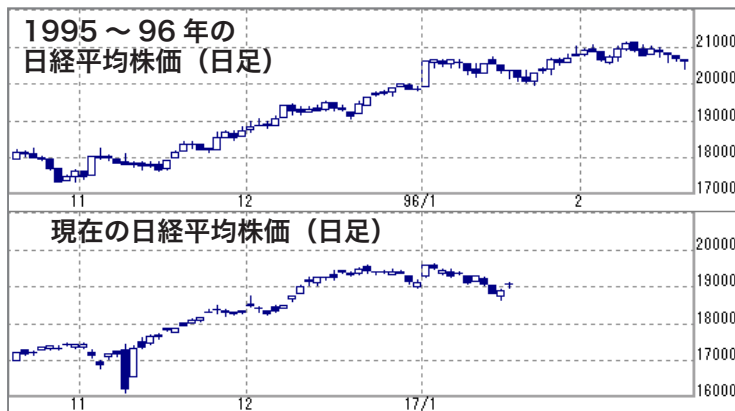
月末に向けての軌道

20日トランプ大統領が誕生。市場はどのような反応を示すか判らない。政策そのものは株高を期待させるもので、現に大統領選直後の上昇が大方の市場コンセンサスに反して上げた事は事実だが、問題は山積み。はたして、トランプ大統領は4年間持つのか、市場の最大の懸念であろう。

政治世界、一寸先は闇といわれる状況で政治家自身もわからない。スキャンダルが飛び出たり、足をすくおうとしている敵は多い。トランプ氏の敵は多い事は確かだが、逆に最初は過度に期待されない方が、気が楽であろう。本当に米国経済が順調に拡大し、グローバル企業が米に戻り、国が潤えば歴史に名を残す名大統領ということにもなる。こんなことは誰も予想していないが、去年の様々なサプライズを考えると、ありえないことが起こることも考えられる。

今年のサプライズ10大予想の一つ、筆者は年末、「トランプ大統領の支持率が60%を超える」一を掲げておく。ただもしトランプ氏の政策が強力に推し進められ、成功するとすれば、明らかにドル高になろう。これはトランプ氏の意向と反するこ

とになる。先週の如くドル高をけん制する発言など飛び出せば、日本は円高、株安にストレートに反応を示す。しかし長期トレンドは上昇を見越しているの、逆にこういった口先介入で下げたところは買い場になるだろう。引き続き、日経平均は1995～96年のフラクタルを追いかける。1月後半からの上昇では2万円をトライすると見込む。ただし、今週の引け値で18,300を下回って引けてくれば、フラクタルから外れるの注意が必要。



今週の必押し

幾ばくかの利食いを推奨

ユーロ／ドルの買いを推奨中の当欄。前週「まだ3日安値(1.0341)が長期相場サイクルボトムであったと断じるには時期尚早だが、少なくとも69日移動平均付近、もしくは昨年3月の安値水準(11月高値からの下げの半値戻し水準に近い)まで戻るのではないかと記述。先週の週明けの引け値では69日平均を上回ったが、1.07付近では頭が重たかった印象。

これに関連するような記述を先週していた「黄金分割から見た昨年11月高値からの下げ幅の修正高水準は、38%訂正水準で1.0707±0.0043。50%訂正水準で1.082±0.0057。62%訂正水準で1.087±0.0070と算出される。15日スローストキャスティクスは、あと少しで買われ過ぎのエリアに進む。日柄的要因も鑑みて、相場は今週から来週までに上記どれかの値位置まで上昇し、その後どこまで下げるかが、今後の相場基調の指針を決めるのではないかと。相場が69日平均に到達したので、3日安値が何らかの相場の節目となった事は間違いないだろう。

しかし、先週の高値エリアが38%訂正水準であったという点は注目しておくべきであると思う。今週の段階で買いポジションは幾ばくか利食いしておいた方が良いと思われる。

日足レベルでこの相場が強気基調に転換するには、23日平均が69日平均を上回り、尚且つこれらの移動平均価格を相場が引け値ベースで上回る必要がある。しかし、現在はストキャスティクスが買われ過ぎ領域に入っており、基調転換する前に、修正安が先に来る事を想定しておくべきであろう。

先週17日の高値1.0718が目先の節目であった場合、修正目標値は大まかな目安として1.06もしくは1.05に置かれる。特に後者は昨年5月の高値に起因する下降チャネルラインの第一下限のエリア。ここまで押した場合は利食いした分の買い直しを推奨したい。

その一方で、まだまだ今週も上昇を指向する可能性もある。その目安としては先述の50～62%訂正水準までの上げが想定されるが、そうなった場合は更に幾ばくかの利食いを推奨。来週頭、月末31日にはFOMCがある。そこでの何らかのサプライズが相場にプラスに働けば良いが、逆の可能性もあるだろう。

今週の主な予定・経済統計

1月23日(月)

- ・11月の日本の景気先行指数、及び景気一致指数

1月24日(火)

- ・参院本会議、衆院本会議
- ・英最高裁、EU離脱の議会承認めぐり判断
- ・米2年債入札 (260億ドル)
- ・昨年12月の米中古住宅販売件数

1月25日(水)

- ・1月の独IFO景況感指数
- ・米5年債入札 (340億ドル)

1月26日(木)

- ・米7年債入札 (280億ドル：入札合計は880億ドル規模)
- ・米週間新規失業保険申請件数 (前週は23.4万件)
- ・昨年12月の米新築住宅販売件数
- ・昨年12月の米景気先行指数
- ・ユーロ圏財務相会合

1月27日(金)

- ・昨年12月の米耐久財受注 (1.0%の減少予想、前月は横ばい)
- ・昨年第4四半期の米GDP速報値
- ・1月の米ミシガン大学消費者信頼感指数・確定値 (98.1の予想)
- ・EU財務相理事会
- ・上海市場は春節祝日で休場 (2月2日まで)



今週の相場風林語録

相場は気の世界【1】

人間、その日によって、気が乗ったり、気が沈んだり、気の晴々する日もあれば、気が滅入ったりする日もある。強気になったり、弱気になったり、市場の人気の吹く風は、さまざまな色彩である。

今週の**九星★波動**

南雲 紫蘭

恐るベシトランプ

トランプ氏が具体的な政策の実現性を見せなかった事で、マーケットでは失望が広がっています。この失望は現地時間20日の就任演説でもなくならない、いやむしろ強化されるだろう、との思惑で円高株安を期待する向きが多いのですが、ことはそう簡単ではありません。

思い返せば、トランプ氏が米大統領選で訴えてきたのは、大幅な減税、インフラ投資、規制緩和。労働需給がタイトな中で、大幅な財政出動が展開されれば、米長期金利と期待インフレ率は上昇。これがドル高と想定され、同時に財政出動の効果、規制緩和で米株高の要因に。リターンが期待出来るなら、マネーは米国に集中。集まったマネーを国内のインフラに振り向けられれば、米政府は自らの資金を投入しなくても海外投資でインフラを更新出来るのです。関連したビジネスでは雇用が発生、不満が蓄積していた中間層の雇用は増えるというおまけつきです。

相場指南道場

トレーダーあすなろ物語 (379)

中原 駿

本人の預かり知らぬ所で、理不尽な上層部に楯突く新世代にとってのヒーローとなった上野一。

東京に帰ってきた彼が感じる違和感の正体の一つはそれであった。明らかに、管理職は彼を胡散臭いものと忌避している一方で、若手の多くは目を輝かせて話しかけて来てくれた。

最近入ってきたために直接面識のない人間から見れば、彼はまるでヒーローであった。そうした眼差しも、また上野を当惑させた。上野はそんな引き裂かれた感情に晒されながら、青山のイチョウを踏みしめていた。

上野は青空に映えるイチョウの美しさと落ちた葉を、めんどくさそうに清掃している老婆を見た。

第六感の**ボトム圏に達成**

テクニカルアナリスト 葛城 北斗

サブサイクルの上昇期を狙う

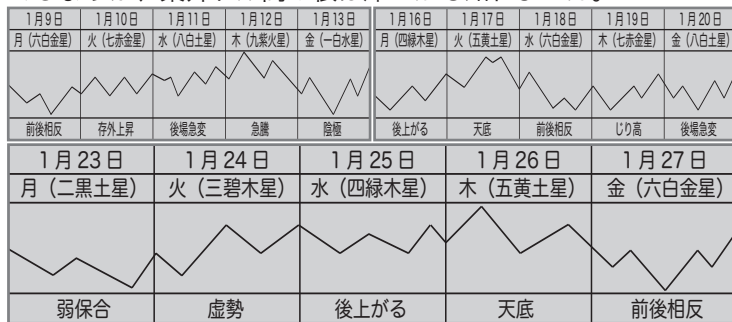
先週述べたドル円相場の見解は「サイクルに従った動きを続け、目先は7～11週サブサイクルボトムの確認を待っている。これまで述べてきた調整レベルは114.60～111.98。先週は113.76まで下落。目標ゾーンの中心圏に入った。サブサイクルベースでは110円を割りこんで引けるまではこのレベルは押し目買い」。トランプ氏のドル高けん制発言で18日ドル円相場は112.53まで突っ込み、翌日115円60台まで戻すなど激しい動きである。2日足らずで3円幅は最近では珍しいことではない。ブレイグジットは1日で7円幅、大統領選では5円弱の動き。トレードするにあたってはかなりの余裕資金がないと、反対に行けばすぐに切らされる。数時間で3円幅は当たり前と割り切らないと参加できないだろう。

さて、ドル円の7～11週サブサイクルは今週は11週目。通常なら今週で終わるはずだ。先週の安値を更新しなければ、ボトムは既に付けた可能性が高まる。押し目はどこでも買いで対処したい。ただし、3円幅が簡単に動くご時勢、最低でもストップを110円割れの引け値に設定しておきたい。

前回も述べた如く「次の新サブサイクルの上昇期では現行サブサイクルの高値を更新すると予想される。このケースでは少なくとも2015年6月の高値をテストするか上抜くことも想定できる。110円を引け値で割り込むまでは1年サイクルの上昇期が続いていると判断する」。しかし110円を割って引けてく

同時にドル高は米製造業の競争力を削ぐ効果もありますが、それを防ぐウルトラCが国境税。これで安い輸入品を遮断すれば、ドル高の弊害を少なくとも米国内に持ち込む事が防げます。

国境税は米国内での輸入品価格を押し下げます。しかしそれはドル高効果で相殺すれば良い訳で、こうしたまるで世界大戦前のような米国一国ブロックが完成すれば、米国の繁栄は間違いなし。恐るべし、トランプ。実現へのハードルは低いかもしれませんが、案外ドル高の根は深いかも知れません。



老婆は腰をかがめながら、何かを呟いているようだった。近くに寄ると、老婆は「このゴミが、このゴミが」と言っているようだった。このゴミが……。

木についているうちは、美しいイチョウの葉も、落ちてしまえばゴミなのだ。

確かに、そうなのだ。上野は一人で合点した。

俺は単なるイチョウの葉だ。美しい秋の日に青空に対比されているうちは見事だろう。だが、そこから落ちてしまえば、単なるゴミだ。ゴミは老婆が面倒に捨てるだけの価値しかない。捨てられ焼かれ、そして何もなくなってしまう。

輝く黄金は、まるでうたかたの夢のようなものなのだ。

これからの会議で何もなくても、いつかはポジションとシンガポール支店の事は明るみに出る。

そうすれば、自分はまるでイチョウの葉っぱのように落ちたゴミとなるのだ……。

ると、1年サイクルのトップアウトを確認する。このケースでは残念ながら年前半は円高が続くことを意味する。

また先週は過去3年のアノマリーに注目した。「……2014年以降、3年連続、今年も含めれば4年連続と言えようか、1月は下げで始まる。特に14年、15年1月はその前年からの上昇が今回同様、何れも一本調子の急騰を演じた後からの調整になっている。14年1月、15年1月の調整はチャートに見る如く、高値をつけた後ボトムを打つまでの時間は何れも5週を要した。下落率は4.46～4.9%となった。今回昨年12月11日に118.65の高値を付けてから今週で5週目に入る。上記の下落率を採用すると113.19～112.84」。少し行き過ぎたが、安値圏に入った。逆三尊形なら114円前後は未だ残されている。ストップを110円割れの引け値に設定して買いを狙う。



サイクルだけ話します。

— メリマン・サイクル理論 備忘録 —

【第24回】ユーロ／ドル相場のサイクルについて (3)

今回はユーロ／ドル相場と移動平均線の関係も交えて、この相場のサイクルについて考えていきたいと思います。これまでの記述で、この相場は1月3日の安値1.0341で長期16.5年サイクルのボトムをつけた可能性があるとしてきました。

この相場が8.25年(99ヵ月)サイクル2つ、更に8.25年サイクルが4.125年(49.5ヵ月)サイクル2つで構成されるなら、直近の相場を見る時の移動平均はどの日柄に設定するか。

相場には本来正解はありませんが、“直近”ならば大まかに有効日柄の半分と1/3。50ヵ月、25ヵ月、17ヵ月で設定して見ると良いでしょう。実際、これで見ると1.10のところに上値抵抗が集中しています。相場が強気基調の場合、短期線が長期線を上回り、尚且つ相場が両移動平均を上回る必要があります。従って、基調転換の第一条件は引け値で1.1をしっかりと上抜ける事。最終的には50ヵ月平均を上抜ける事になるでしょう。

メリマン通信 — 金融アストロロジーへの誘い —

いざ1月28日。でなければ2月頭

先週、ドル／円と米ドル指数の週の安値は17日に、日経平均株価の安値は18日につけた。これは恐らく19日の火星・土星スクエア(90度)と、下弦(太陽・月スクエア)と太陽の水瓶座サインチェンジ(これら2つは日本時間では20日)の影響であったのではないかな。

3市場ともここでつけた安値から反発しているが、これは節目となる安値であったのか、それともあやうげに過ぎないのか。筆者は後者であると思っている。本格的な反転場面があるとすれば、それは今週末28日付近ではないか。これに関して先週次の通り述べた“…星回りから見ると28日付近が怪しいと筆者は見ている。…短期トレーダはこれ以外に火星の動きに注目するとよいかもしれない。火星は昨年8月3日に射手座、9月27日に山羊座、11月9日に水瓶座、12月19日(水星逆行開始日)

高く仕入れて安値で投げる投資家から
脱却してアクティブブシニアになろう！

四半世紀以上、投資の最前線で活躍してきた
「プロ中のプロ」が語る現在の株式市場とは

- ◎マイナス金利時代に株を持続
けて成功する秘訣を解き明かす
- ◎10倍になる株など豊富な実例
で銘柄発掘の心得を公開！
- ◎株式投資の実践編として〈有望
銘柄掲載〉！



株で資産を蓄える

～バフェットに学ぶ失敗しない長期株式投資の法則～

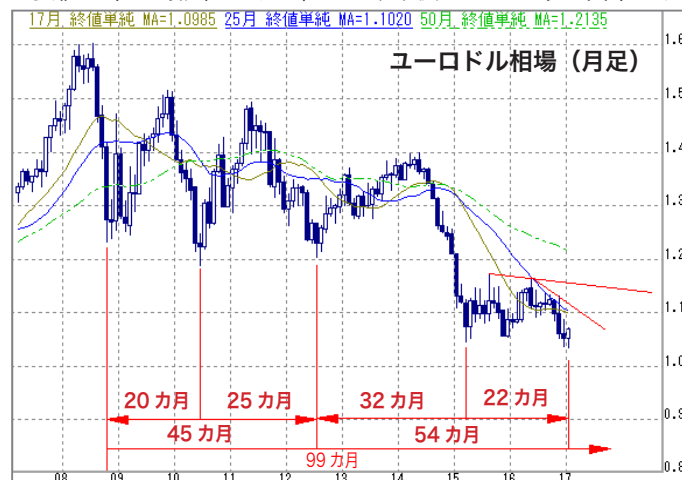
S・アダチ&カンパニー

代表取締役社長

足立 真一 著

発行：開拓社 定価：1,296円(税込み)

さて、ここで示した“25ヵ月”ですが、08年安値から4つの25ヵ月、2年弱のサイクルは見て取れます。更に2015年3月の安値から日柄を数えると、9ヵ月、6ヵ月、7ヵ月で節目となる安値をつけていました。従って、今年1月の安値が長期相場の大底であれば、今から8ヵ月前後、つまり夏ごろに節目の安値が来る可能性がある、という予測を立てる事が出来ます。



に魚座にサインチェンジした。実勢相場は8月4日に安値、9月27日に安値、11月9日に安値、12月21日に高値が出現している。現在魚座に入居している火星が牡羊座にサインチェンジするのは1月28日。まさに水星逆行シャドウ期が終わる(水星が逆行開始時の天体配置のところまでに戻る)時間帯にあたる。星で上下を推測する事は出来ないが、この付近は何らかの節目の時間帯になるのではないかな。…28日は新月。更に日本時間では金星・土星スクエアが発生。12日の時のように主要天体位相が集中している。30日(日本時間)には水星・冥王星コンジャンクション(0度)も発生する”。

もちろん、先週の安値から反転した相場が28日まで上昇するという見方もある。そうであれば、次の節目は2月1～6日がその候補となる。この時間帯では1日に水星・天王星スクエア、2日(日本時間3日)に水星・木星スクエア、3日(日本時間4日)に金星サインチェンジ、4日に満月、6日に木星逆行が始まる。株式の節目と木星に関連する天体位相との間には相関性がある。

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！

今週のアストロロジー info

- 1月23日(月) 負けた相場の敗因は欲深き大罪にあり
- 1月24日(火) 週末までレンジ
- 1月25日(水) 際立つ惑星間のアスペクトなし
- 1月26日(木) 真空地帯か、ブッシュ地帯か
- 1月27日(金) レンジ放れの様そう
- 1月28日(土) 足るを知る者は富めり
- 1月29日(日) 有卦無卦の周期を常に意識する

FORECASTS 2017
レイモンド・メリマン 著
秋山日揮香・投資日報編集部 訳
投資日報出版発行 8100円(税込・送料別)

2017年は相場の節目か？

星を読む。サイクルを読む。市場を読む。
Feel the star. Feel the cycle. Feel the market.

フォーキャスト2017

アストロロジーとサイクルで
2017年の相場を読み解く究極の書

レイモンド・メリマン 著 秋山日揮香・投資日報編集部 訳
投資日報出版発行 8100円(税込・送料別)

簡単・便利な『投資日報オンラインショッピング』もご利用ください。

お問い合わせ・お申込みは：**投資日報出版(株)** <http://www.toushinippou.co.jp/>
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-12-11 GRANDE 人形町6F 電話：03-3669-0278 FAX：03-3668-4444